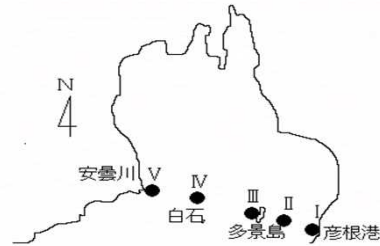


琵琶湖定点定期観測結果速報(令和4年11月)

数値は速報値であり、確定値ではありませんので、ご注意ください。

調査年月日 令和4年11月15日

調査地点 彦根市～高島市安曇川町に至る5地点
(ただし、湖岸水温は彦根市八坂町
滋賀県水産試験場地先における測定値)



調査地点図

調査結果

平均値 …… 5地点の平均値

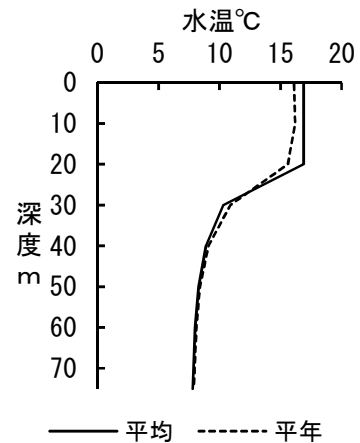
平年値 …… 透明度、湖水温、湖岸水温、プランクトン沈殿量は1991年～2020年(平成3年～令和2年)の同時期調査の平均値

DO(溶存酸素濃度)は2012年～2021年(平成24年～令和3年)の同時期調査の平均値

1. 透明度 11月平均値 6.2m 平年値 6.3m

2. 湖水温 (°C)

深度(m)	11月平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
0.5	16.9	16.1	+0.8
10	16.9	16.2	+0.7
20	16.9	15.6	+1.3
30	10.3	10.9	-0.6
40	8.9	9.1	-0.2
50	8.3	8.4	-0.1
60	8.0	8.1	-0.1
75	7.8	7.9	-0.1



3. 湖岸水温 (°C)

月(旬)	平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
10月下旬	18.7	18.6	+0.1
11月上旬	17.6	16.9	+0.7
11月中旬	16.5	15.3	+1.2

4. プランクトン沈殿量 (ml/m³)

水層 (m)	11月平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
0~10	7.7	15.8	-8.1
10~20	5.1	5.0	+0.1
20~40	2.1	2.0	+0.1
40~75	0.5	0.5	+0.0

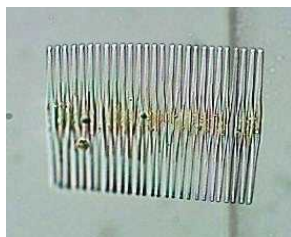
(プランクトンネットNXX14使用)

5. 表層のプランクトン優占種

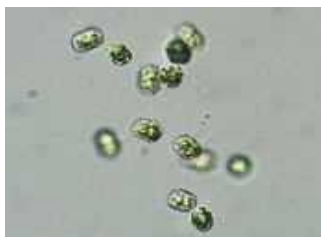
○プランクトンネットNXX14による採集(植物:未固定 動物:5%中性ホルマリン固定)

植物プランクトンは全体的に少ないが、全ての地点で*Fragilaria crotonensis*(オビケイソウ:珪藻)と*Cosmocradium constrictum*(コスモクラヂウム:緑藻)が細胞数で比較的多く認められた。

動物プランクトンは地点1で*Synchaeta sp.*(ドロワムシ属:ワムシ類)が、地点2~5で*Raphidiophrys sp.*(ラフィディオフリス属:太陽虫)が個体数密度でそれぞれ最も多く認められた。



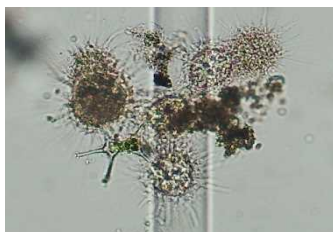
Fragilaria crotonensis



Cosmocradium constrictum



Synchaeta sp.



Raphidiophrys sp.

6. DO (溶存酸素濃度 : mg/L)

深度 (m)	11月平均値		平年値		平年差	
	DO	(酸素飽和度%)	DO	(酸素飽和度%)	DO	(酸素飽和度%)
0.5	9.4	100.4	9.7	101.3	-0.3	(-0.9)
10	9.4	100.3	9.5	100.0	-0.1	(+0.3)
20	9.4	99.5	9.3	97.5	0.1	(+2.0)
30	7.5	68.7	7.4	70.3	0.1	(-1.6)
75	4.4	38.3	4.5	39.5	-0.1	(-1.2)